

## 2014 年度 特定非営利活動に係る事業報告

### 概況

他学会とも連携して活動するなど幅広く課題を取り上げて会員が研讃するとともに、発表や議論の場を会員外にも提供しながら活動した。定期的な活動である学術総会、春季討論集会を開催した他、学会誌を 2 回発行し web 上で公開した。会員が議論を深めることを目指して、学会ホームページ上に会員の自由投稿欄「論議の輪」を設けた。

以上の如く実践的で具体的な活動を展開した。

「その他事業（収益事業）」については実績がなかった。

### I. 事業に関すること

#### I-1. 調査・分析・研究に関する事業

##### 1. 第 11 回学術総会の開催

第 11 回学術総会を開催した。

日時：9 月 25 日(木)10:00～18:00

会場：お茶の水女子大学 共通講義棟 1 号館 304 室

参加者：63 名

内容：(1)奨励賞伝達式 1 件

以下の受賞者に対して、奨励賞を伝達した

・武田薬品工業株式会社

(2)奨励賞記念講演 1 件

・田坂昭弘氏（武田薬品工業株式会社）

「武田薬品の環境と化学物質管理の取組み  
－エビデンスに基づく管理を目指して－」

(3)一般発表 3 件

・星川欣孝氏（正会員）

「化学物質管理の国際合意への対処に内閣主導は不可欠」

・三上奈緒子氏（学生会員）

「化学物質総合管理に関する企業活動の評価  
－2013 年度評価結果の概要－」

・榎尚史氏（正会員）

「化学物質総合管理に関する企業活動の評価  
－2007 年度～2011 年度の推移の要因と背景－」

(4)企画テーマ「感染症のリスクの制御の現状と今後の展望」 4 件

- ・西條政幸氏（国立感染症研究所）  
「感染症をめぐる国際情勢と国内対応」  
「感染症の制圧を目指した内外の取組み  
ーポリオ・天然痘と結核の事例を検証するー」
- ・柴山恵吾氏（国立感染症研究所）  
「国内外における薬剤耐性菌の状況」
- ・浅井鉄夫氏（岐阜大学大学院）  
「止むことのない耐性菌との戦い  
ー動物薬を巡る内外の現状と今後の対策」

## 2. 春季討論集会の開催

春季討論集会(2015)を社会技術革新学会と共催で開催した。

日時：2015年3月6日(金)10:00~18:10

会場：お茶の水女子大学 共通講義棟1号館304室

参加者：47名

内容：2テーマについてそれぞれ2名、3名の発表の後、討論を行った。

### (1)企画テーマⅠ「化学物質総合管理のあるべき姿と日本の現状」

- ・富田和之氏（パナソニック エコテクノロジーセンター株式会社）  
「循環型社会の構築に向けた課題と展望  
-化学物質管理と環境教育の視点から-」
- ・増岡宗一郎氏（厚生労働省 労働基準局 安全衛生部 化学物質対策課）  
「労働安全衛生法の平成26年改正における化学物質管理のあり方の見直し  
の全体像ー主旨と内容と意味ー」

### (2)企画テーマⅡ「グローバルな展開に求められる人材とマネジメント」

- ・井上睦子氏（文部科学省 大臣官房国際課）  
「教育の国際化に求められるものと目指すもの」
- ・挟間新一氏（住友化学株式会社 人事部）  
「海外事業展開における人事施策」
- ・崔英氏（綜研化学（蘇州）有限公司）  
「人材の視点から見る海外事業展開  
ー中小企業のグローバル化への対応例ー」

## 3. 学会誌『化学生物総合管理』の発行

(1) 第10巻第1号（2014年8月発行）総ページ 58ページ

報文：1件 星川欣孝氏他

『化学物質総合管理による能力強化策に関する研究（その21）

－国際競争力の向上に不可欠な化学物質総合管理法制』

特集：3件 高橋美加氏他

『OECD 化学物質対策の動向（第24報）

－第3回 OECD 化学物質協働評価会議（2012年ルチェルン）』

松本真理子氏他

『OECD 化学物質共同評価プログラム：

第5回化学物質共同評価会議概要』

高橋美加氏他

『OECD 化学物質対策の動向（第25報）－第4、5回 OECD 化学物質共同評価会議（2013年パリ、ワシントンDC）』

(2) 第10巻第2号（2015年3月発行）総ページ 82ページ

報文：4件 星川欣孝氏他

『化学物質総合管理による能力強化策に関する研究（その22）

－化学物質管理の国際合意への対処に内閣主導は不可欠－』

榎尚史氏他

『化学物質総合管理に関する企業活動の評価－2012年度企業活動結果－』

三上奈緒子氏他

『化学物質総合管理に関する企業活動の評価－2013年度企業活動結果－』

榎尚史氏他

『化学物質総合管理に関する企業活動の評価

－評価項目の再整理による類型化とその特徴－』

#### 4. 講習・セミナー

第1回ワークショップを「日本の法律は、国民を守り切れるか？－家庭用殺虫剤を例にして内外の法規と科学を論じる－」と題し11月18日に行う予定であったが、講演者の事情の変更のため中止となった。

#### 5. その他

(1) 自由投稿欄「論議の輪」の活用

2009年10月にホームページの「ちょっと一言」欄と「提言」欄を統合し、新たな意見投稿欄として「論議の輪」を設けている。2014年度は投稿件数が1件であった。投稿者とタイトルは以下のとおり。

社会技術革新学会有志・化学生物総合管理学会有志

『「規制改革実施計画」に求められる化学物質管理政策の見直しの重点はリスク管理の適正化と国際競争力の向上』

I-2. 科学・技術・企業行動・社会制度などについての知見の集大成・体系化に関する事業  
今年度の活動実績はなかった。

I-3. 知見と技術の教育・普及・啓発に関する事業

1. 教育・啓蒙

(1) 「知の市場」の紹介をホームページやニュースレターで行った。

(2) 以下の科目について研究会が知の市場の連携機関になり開講した。

科目 No.	科目名	副題	開講場所	開講時期
<b>化学物質総合経営学教育研究会</b>				
CT136	規範科学事例研究 1	社会の諸々のリスク・マネジメントの実際を検証する	お茶の水女子大学	前期
CT137	化学物質総合経営学事例研究 1	国際的枠組みと企業の自主管理活動を検証	お茶の水女子大学	後期
ET133	化学物質総合経営学概論	化学物質総合管理を目指す国際協調活動に学ぶ—新たに制定すべき総括法の基本的枠組みと付加価値を生み出す次の一手—	日本リファイン	前期
GT131a	農薬総合管理	農薬のベネフィットとリスクの総合管理の実際	三井不動産	後期
(13)	化学物質総合管理論 b		神奈川科学技術アカデミー	後期
(13)	化学物質リスク管理論 a		日華化学	後期
(51)	価値創造論		デンソー	後期
(13)	化学物質総合経営論 a		パナソニック	後期
(13)	化学物質総合経営論 b		日本機械輸出組合	後期
<b>化学物質総合経営学基礎教育研究会</b>				
UT134	化学物質総合経営学基礎論	健康と環境へのリスクを巡る国際的な論議を跡づけながら経営リスクを管理しつつ付加価値の創造に繋げる道を探る	放送大学東京文京学習センター	前期

UT135	規範科学基礎論	文理融合の視点をもつ規範科学（レギュラトリー・サイエンス）を健康や環境へのリスク評価と管理を例題に論じる	放送大学東京文京学習センター	後期
(13)	化学物質総合管理論 a		大分大学	後期

(3) 研究会は知の市場の連携機関になり、2015年度開講に向けて以下のシラバスを検討・作成した。

科目 No.	科目名	副題	開講場所	開講時期
<b>化学物質総合経営学教育研究会</b>				
UT133	化学物質総合経営学概論	化学物質のリスク管理を巡る国際的な論議の系譜に学ぶー健康・環境の向上と競争力の強化に資する社会的な枠組みの構築ー	放送大学東京文京学習センター	前期
UT136	規範科学事例研究 1	社会の諸々のリスク・マネジメントの実際を検証する	放送大学東京文京学習センター（一部、お茶の水女子大学）	前期
UT137	化学物質総合経営学事例研究 1	国際的枠組みと企業の自主活動を検証	放送大学東京文京学習センター	前期
<b>化学物質総合経営学基礎教育研究会</b>				
シラバスの作成はなかった。				

## 2 奨励賞制度の運用

2014年5月30日の第34回理事会で奨励賞候補者を審議した。

最終的に以下の1組織に決定した。

- ・武田薬品工業株式会社

奨励賞伝達式を2014年9月25日の第11回学術総会で行った。

## I-4. 講演会及び研究会の開催に関する事業

### 1. 講演会

今年度中の実施はなかった。

### 2. 研究会

- (1) 化学物質総合経営学教育研究会

- 2013年4月～2015年3月の予定で、研究会活動を展開した。
- (2) 化学物質総合経営学基礎教育研究会
- 2013年10月～2015年3月の予定で、研究会活動を展開した。

## I-5. 広報活動

### 1. ホームページ

学会のPRツールとして、ホームページを開設しており、適宜改定した。

### 2. 会員向けニュースレター

会員宛での連絡ツールとしてNo.163～No.177まで合計15回を発行した。  
(2013年度は17回)

## II. 管理・運営に関する計画

### 1. 通常総会 (第11回)

開催日時：2014年6月20日(金)

会場：お茶の水女子大学

主要議案：  
・2013年度事業報告および決算の承認の件  
・2014年度事業計画(案)および予算(案)の承認の件

### 2. 理事会

第34回から第36回まで3回開催した。

#### (1) 第34回 2014年5月30日(金)

主要議案：  
・2013年度事業報告および決算の承認の件  
・2014年度事業計画および予算の変更承認の件  
・通常総会の開催と議案の決定の件  
・奨励賞受賞者の選考ならびに決定の件

#### (2) 第35回 2014年10月9日(木)

主要議案：  
・第11回学術総会報告  
・中間期活動報告及び中間決算報告  
・ワークショップ開催の件  
・情報基盤の強化(ホームページのワードプレス化)の進捗状況  
・春季討論集会開催についての自由討論  
・来年度事業計画及び事務局の在り方に関する自由討論

#### (3) 第36回 2015年3月19日(木)

主要議案：  
・2015年度活動計画(案)及び予算(案)承認の件

### 3. 監査

2014年5月8日に前年度の業務執行状況および会計処理状況について監査を実施し

た。適正であるとの監査結果であった。

#### 4. 企画運営委員会

3回開催し、学会の運営に関して具体的な施策を企画、立案するとともに業務の推進、調整を行った。理事会と同時開催の形で開催した。

2014年5月30日（金）

2014年10月9日（木）

2015年3月19日（木）

#### 5. 学会誌編集

Eメール臨時編集委員会を活用しながら適宜開催し、学会誌の編集方針や内容の検討を行った。学会誌『化学生物総合管理』第10巻1号を2014年8月に、第10巻2号を2015年3月に発行した。

#### 6. 情報基盤の強化

情報基盤の強化のため、

- ・ホームページとメールのサーバー切替え
- ・ホームページのワードプレス化

を行った。

#### 7. 官公庁への事務処理

以下の資料を提出した。

- (1) 東京都への提出資料：  
平成25年度事業報告書
- (2) 法務局への提出資料  
資産の総額変更登記

#### 8. 会員動向

2014年度の会員数の増減は下表のとおり。

	2014年				2015年
	4月1日	変更	入会	退会	4月1日
正会員	38	1	4	2	41
学生会員	1	-1	1		1
賛助会員	2				2

賛助会員名簿 2015年4月1日現在（入会順、敬称略）

住友化学株式会社

三井化学株式会社

#### 9. 会計

当学会は、年度内実収入を会計処理基準にしている。活動内容を充実させること、

大学研究室への過度な依存を解消していくことを念頭に置きながら支出管理を行った。結果として、2014年度は経常収益 835,949 円に対して、研究室の寄与もあり経常費用 78,358 円となり、当期としては 757,591 円の増加となった。

※その他の事業（収益事業）については、実績はなかった。

以上